科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合　議事概要

○　日　時　　　平成 21 年 10 月 15 日（木）10:00～12:00

○　場　所　　　合同庁舎４号館7F　７４２会議室

○　出席者　　　津村政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、榊原議員、青木議員、金澤議員、藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官

○　議事概要

<u>議題１．オランダイノベーションプラットフォームと総合科学技術会議有識者議員との意見交換について</u>

＜相澤議員より概要説明＞

(相 澤 議 員)◇　突然ではあるが、有識者議員にはこの意見交換にぜひご出席いただきたい。

(白 石 議 員)◇　プレゼンテーションの時間が５分しかないのは短い。

(奥 村 議 員)◇　先方としては、こちらの顔を知って、きっかけを掴みたいのではないか。

(相 澤 議 員)◇　現在の案では、意見交換が 10 分間を２回となっているが、これを 20 分にまとめることも考え得る。

◇　今回は時間の制約があるので、その程度のモディファイで先方に連絡したい。

(榊 原 議 員)◇　誰がプレゼンテーションするのか決めておく必要がある。

(相 澤 議 員)◇　議題案①「競争力とイノベーション」については、全体的な状況説明になると思われるので、私から説明する。

◇　議題②「高齢化」に関して、先方から介護ロボットの話を聞きたいとのリクエストが来ているので奥村議員にプレゼンテーションをお願いしたい。

(奥 村 議 員)◇　介護ロボットに関して、純粋に技術的な説明はできるが、医療現場の話はわからない。現在の状況についてであれば、お話することはできる。

(事　務　局)◇　議題に関する詳細なリクエストに関しては先方に確認中である。

(金 澤 議 員)◇　オランダは高齢者が多く関心が高い。現場を見たいのではないか。

(相 澤 議 員)◇　今回は、あくまで総合科学技術会議有識者議員との意見交換がメインである。

<u>その他．第 85 回総合科学技術会議開催に関する記事等（参考配布）</u>

＜相澤議員より概要説明＞

<u>議題２．平成 22 年度科学技術関係施策優先度判定等の進め方について</u>

＜相澤議員より概要説明＞

＜事務局より補足説明＞

(津村政務官)◇　現在までのスケジュールとして、作業はどこまで進めたのか。

(相 澤 議 員)◇　８月末に概算要求として出された分については終わっているが、そこでストップしている状態。今度は、簡略化できるものは簡略化して、新たな概算要求について同じプロセスを繰り返すことになる。

(岩瀬審議官)◇　ヒアリングについては、変更した点のみについてヒアリングすれば早く済む。

◇　なお現時点で、それまでのヒアリングに基づき何らかの結論を出したわけではない。

(津村政務官)◇　最終的には何を出す必要があるのか。

(藤田統括官)◇　12 月末が予算編成の期限であるならば、11 月末～12 月頭には「予算編成に向けた方針」を総合科学技術会議として出す必要がある。その方針に基づき予算編成がなされることになる。

(津村政務官)◇　先日の本会議での原口大臣の件のようなことがないようにするためにはどうしたらよいか。

(藤田統括官)◇　本会議で決定する前に、内々、各省とのある程度のすりあわせは必要。

(梶田審議官)◇　例年であれば、各省との事前のすり合わせには１ヵ月くらいかけている。

(岩瀬審議官)◇　今年の概算要求は各省にとっては特に厳しいものになる。そのなかで総合科学技術会議がＣ判定をつけるのはさらに厳しい。

(藤田統括官)◇　多くＣ判定をつけると、科学技術の振興を図ることが目的であるはずの総合科学技術会議の役割は何ぞやということにもなりかねない。

(奥 村 議 員)◇　メリハリのつけ方として、概算要求を出す前に、各省を先導する方針を出すべき。

◇　来年度概算要求には間に合わないが、平成 23 年度予算に向け、良いシナリオになるよう各省を先導すべく、抜本的にやり方を変える必要がある。

(津村政務官)◇　政府としての予算編成も、平成 23 年度以降をメドに変えるべく検討を進めている。

◇　11 月末という期限は守る必要があるが、出来ることはやるべき。

◇　この議論について、都度判断しながら公開することについてどう考えるか。

◇　議論の公開については、一般論と、この度の優先度判定についてとの両方についてご意見を伺いたい。

(白 石 議 員)◇　例えば、革新的技術推進費の対象技術を選定するプロセス等は公開できないと思う。

◇　優先度判定についての議論は公開してもいいのではないか。

(相 澤 議 員)◇　専門調査会やワーキンググループでも何かを選考する場合は非公開とし、プロセスに関する議論は公開している。

◇　この会議の公開については、その段階で内容を公表すると混乱するもの以外は公開する方向で問題はないと思う。

(藤田統括官)◇　この会議は、本会議の議題の整理や資料の調整がメインであり、打合せ的な性格の会議なので非公開としてきた。本日の議題でいえば、優先度判定やオランダイノベーションプラットフォームとの意見交換に関しては公開してもいいと思うが、最先端研究開発支援プログラムに関する議論の公開についてはご判断が必要かと。

(津村政務官)◇　最先端研究開発プログラムに関する議論では、個別の数字が出るので公開はできないと思うが、優先度判定についての議論は公開できると思う。

(藤田統括官)◇　まずは政務官からの事後ブリーフィングと、我々の方から議事概要のホームページでの公開というレベルで公開してはどうかと。

(金 澤 議 員)◇　プレス側が成熟しているかどうかのチェックが必要。今まで途中の議論を公開して何回も痛い目に遭っている。

◇　記事を出す側のメディアが成熟しており、理解いただいているうえで取材していただく必要がある。

(榊 原 議 員)◇　この会議は自由な意見交換できる場であるが、プレスが入ると出席者の意識が変わり、闊達な意見交換ができなくなる恐れもある。

◇　また、プレスは断片的な情報に基づき記事にする恐れもある。政務官にきちんと事後ブリーフィングしていただき、結論を整理いただけるということであればいいが。

(津村政務官)◇　記者ブリーフィングで整理したものを出す方が良いのはわかるが、優先度判定は透明感を持って、率直な議論を見せながら進めることが政治的にプラスになるとも考えられる。

◇　原則はこの会議の議事要旨の公開と私からのブリーフィングによる公開ということにして、皆さんのなかで、この議論についてはクローズしたい、ということであればその対応を採る方向で進めたい。

（相 澤 議 員）◇　今までは、大臣がこの会議に出席し実質的な議論をすることはなかった。

◇　今は政務官がこの会議に出てくれて、この場で即、決定できることも多くなっており、この会議を公開することは意義があると思う。

◇　今後、課題ごとに判断して公開する方向で進めたい。

（津村政務官）◇　優先度判定に携わった外部専門家のリストがあれば見せてほしい。

◇　外部専門家は誰が決めるのか。事務方から案を出すのか。

（相 澤 議 員）◇　招聘する外部専門家は、我々有識者議員が決めている。

（津村政務官）◇　関係施策300件のうち今回はどのくらい残るのか。またまったくの新規施策がどのくらいでてくるのかがポイント。

（相 澤 議 員）◇　全体ヒアリングは、時間を工夫したうえで行う必要がある。

（津村政務官）◇　外部専門家が利害関係にあるケースもあるのでは。対外的に問われたときに出せる、ヒアリングの際のメモ等の記録はあるのか。

（事　務　局）◇　ヒアリングの際の詳細なメモはない。

（津村政務官）◇　ギリギリ詰めていくと、「お手盛りになっていないか」、「密室で決めているではないか」との声に応えられる体制・説明用の資料を整理しておいてほしい。

◇　対象施策についてはこれでよいとお考えか。

（白 石 議 員）◇　今回修正した部分を見える形で出してもらえば、新規施策については大丈夫かと。

◇　重要継続施策は長期的に予算が必要なものであり、「ここはこう変えた方が」との見解付け程度しか無理ではないか。

◇　その他の継続施策について大臣・政務官にご判断いただく必要があると考えられる。

（津村政務官）◇　「新規１億円以上」の施策を対象とするのは常識的なのか。

（白 石 議 員）◇　金額的には妥当かと。

（奥 村 議 員）◇　物理的な限界もあるので、抜き取りサンプル調査的にヒアリングしているもの。

（白 石 議 員）◇　現在のプロセスでは、我々には正確な予算額の妥当性がわからない。判定の基準は「どれくらいメークセンスするか」でよいと思っている。

（奥 村 議 員）◇　我々の作業で予算査定することはできないが、一方、我々が今の作業をしていない時代には財務省が査定とあわせてやっていた。

◇　やはり、出された施策を判定するのではなく、企画立案の段階で我々がインボルブする方法に変えるべき。

◇　外部専門家については、直接の利害関係者は省いているが、それでもやはり当該分野の応援団になってしまい、厳しい判断を下すのは難しい。どこまで行ってもこのやり方には限界がある。

（津村政務官）◇　状況はよくわかった。継続施策については、丁寧に見てみたい。日程の問題もあるが、全体ヒアリングには、可能であれば大臣も出席したい。個別ヒアリングには、可能な限り私も出席したい。

議題１（再）．オランダイノベーションプラットフォームと総合科学技術会議有識者議員との意見交換について

＜相澤議員より津村政務官に概要説明＞

議題３．最先端研究開発支援プログラムについて

（相 澤 議 員）◇　まず、政務官から現在の状況をご説明願いたい。

（津村政務官）◇　現在、菅大臣と行政刷新会議との間で調整が進められている。行政刷新会議からは、「若手・女性研究者支援の目的で、なぜ今年度補正予算で対応する必要があるのか。その目的の分の金額については500億円に半減できるのではないか。」と言われている。

◇　菅大臣は2,000億円の規模は守りたいとのご意向をお持ちである。また、菅大臣としては、科学技術にアクセントを付けるのを政権の方針にしたいとの思いもお持ちである。

◇　この件については、古川副大臣のお立場もあり、政務三役間でもかなりの議論になっているところである。

（相 澤 議 員）◇　10月16日には決まるとの報道もあるが。

（津村政務官）◇　私も報道ベースでしか知らない。今日明日にも政治判断があるかと思う。

◇　本件については、来週以降、本来の主旨を有効活用できる複数の選択肢を私から菅大臣に示したいと考えている。

＜相澤議員より資料の概要説明＞

（榊 原 議 員）◇　決定した30人に対する予算が1,000億円になるのは決定したのか。政治決定であって、我々有識者議員に意見を聞かないと。議論の余地はないのか。

（津村政務官）◇　現時点では閣議決定はしていない。

◇　ただし総額については議論の余地はない。有識者議員の皆さんが菅大臣の主旨を確認したいということであれば、菅大臣にこの会議にご出席いただいて、有識者議員と意見交換することは可能である。

（榊 原 議 員）◇　総額が2,000億円に減額されることは政治決定であるが、2,000億円をどう使うかは議論すべき。

（津村政務官）◇　以前、この会議の場で意見交換し、提出いただいた資料も見た上で、菅大臣が結論したということはご理解いただきたい。改めて菅大臣を交えて議論したいということであれば、この会議にお呼びする。

◇　ベストは、来週木曜日のこの会議で、菅大臣から経緯の報告と今後の進め方について説明いただく場を設ける方向かと。困難であれば、この会議でなくとも、何らかの議論の場を設けるのは、私の責任で約束する。

（白 石 議 員）◇　既に決定した30人の研究者には早く伝えてあげたうえで善後策をとらないと、翻って大臣への批判の声になる。スピードが大事。菅大臣に伝えてほしい。

（相 澤 議 員）◇　専念義務を課すことにしているので、研究者には１日も早く伝える必要がある。

◇　また予算規模によっては、現在海外におられる方が日本に戻ってこられない可能性もある。

（榊 原 議 員）◇　研究者は2,700億円を前提に応募しており、専念義務があることから他の研究費をとりにいっていない。これが１/３の規模になれば、「話が違う」ということになる。

（津村政務官）◇　決定した研究者には個別の予算規模は伝えていないのではないのか。勝手にイメージしているだけでは。

◇　予算の配分の仕方を考えるときに、一律シーリングとせず、つぶさに見て決めるしかないのでは。

◇　これは地方議会対象の補正予算の既執行・未執行をどうするかというのと同じ問題であり、丁寧に聞いたうえで迷惑がかからないよう対処できる余地はあると思う。

（榊 原 議 員）◇　2,700 億円が 2,000 億円に減額されるのはわかるが、政治決定の名の下に、菅大臣が、2,000 億円を 1,000 億円と 1,000 億円に分けると決めたということであれば、透明性に問題があると言わざるを得ない。

◇　若手・女性研究者も大事であるが、これまでまったくそうした議論をしていない。まったく議論していない対象に予算を回すのは透明性がなく理解できない。

◇　「前政権で決めたことは覆す」というだけでは理由にならない。

（津村政務官）◇　新政権では、これまでの全てを「０から見直す」ことにしている。総合科学技術会議についても、これを廃止して科学技術戦略本部に改組することは民主党の政策集に掲げており、当然、いずれは検討すべき課題である。

◇　とはいえ、現段階では、不必要なノイズを出さないように進めていくことも重要であり、この考え方で、ゼロベースのものを 50 点・60 点の点数をつけて進めているのが現在の状況である。

◇　少なくとも、「０から見直す」という部分に対しては、皆さんの声を汲んで進めていることは理解してほしい。

（榊 原 議 員）◇　一度も議論していない、まったく新しい考えである、若手・女性研究者に配分するということが理解できないと申し上げている。

（金 澤 議 員）◇　最先端研究開発支援プログラムに関して言えば、支援会議やワーキングチームは未だ存在すると思っていいのか。

（白 石 議 員）◇　制度的には廃止されていないと考えてよいのでは。

（金 澤 議 員）◇　2,000 億円であろうが 1,000 億円であろうが、制度の運用はプロが行わないと難しいと思う。

（白 石 議 員）◇　運用体制については、この会議で議論して決める必要がある。政治的判断も必要。

◇　とにかくスピードが問題になる。運用の体制を議論して、それから専念義務をどうするか議論して、云々とやっているとすぐに時間が経つ。即決していく必要がある。

（藤田統括官）◇　９月４日の本会議決定は、「適切な予算額への調整」を支援会議に委ねている。

◇　菅大臣からは、この枠の中での議論と認識していると聞いている。ただし、検討体制そのものの議論は必要かと考える。

（津村政務官）◇　菅大臣は９月４日の本会議決定の運用で進められると認識しておられる。

◇　現実として止まっているのも問題。

◇　とはいえ、菅大臣もご多忙であるので、有識者議員の皆さんがこの件に関して重要と思われている主要な論点や今後の運用、検討体制などについて、来週早々にもペーパーで提出願いたい。

◇　有識者議員の皆さんからいただいたペーパーは本日の議事要旨とあわせて、私から菅大臣にご説明する。

◇　既に決定している 30 人の研究者の方々にご迷惑がかからないよう、早く進めたい。

（藤田統括官）◇　有識者議員からのペーパーは事務局で取りまとめて政務官にお渡しするので、来週月曜日（10 月 19 日）の９時 30 分までにＥメール等で事務局あて、ご提出願いたい。

（以　上）